

# 愛知県感染症情報

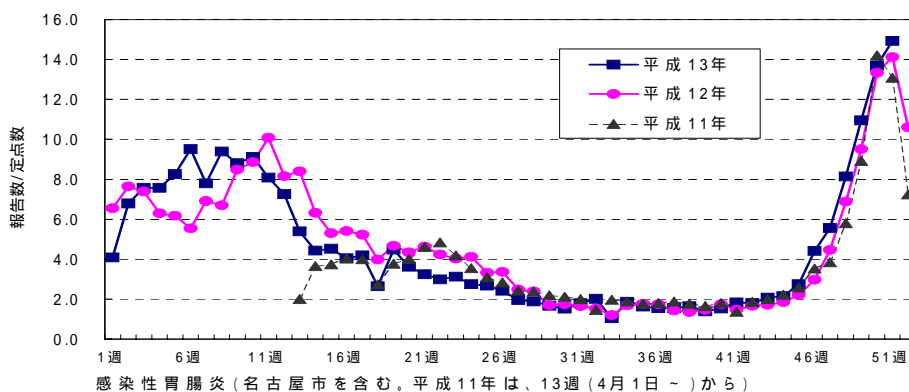
## 平成 13 年第 51 週 ( 12 月第 3 週 )

( コメント )

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘はいずれもピークをむかえていますので注意してください。

インフルエンザは一部地域で流行が始まっていて、特に豊橋で報告が多く見られます。

これら疾病についての詳しいことは、愛知県衛生研究所のホームページ ( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> ) をご覧ください。



( 定点の先生方からのコメント )

### ● 尾張西部地区

- ・ 01 ( 1 歳男、8 歳女、40 歳女 )、018 4 歳女、010 5 歳女。  
インフルエンザ B 多いです。

( 尾西市 城後小児科 )

- ・ 幼児 ~ 学童 全年齢で感冒性腸炎みられます。  
乳幼児の発熱、喘鳴を伴うかぜ多いです。

( 一宮市 あさのこどもクリニック )

- ・ 全年齢層に感染性胃腸炎流行

( 一宮市 後藤小児科医院 )

- ・ 急性胃腸炎多し。嘔吐のみが多し。インフルエンザはまだです。

( 岩倉市 なかよしこどもクリニック )

- ・ 嘔吐を伴う感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎の流行続いています。A群溶連菌感染症も散発しています。手足口病2名ありました。  
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ 69歳女  
(師勝町 師勝クリニック)
- ・ マイコプラズマ感染症 2歳女  
嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが、未だ流行して居ります。ロタウィルス(-)です。  
(春日町 丹羽医院)
- 尾張東部地区
  - ・ 相変わらずマイコプラズマ肺炎が多くみられます。  
A型インフルエンザ 33歳女  
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
  - ・ 溶連菌感染症、水痘流行続いております。相変わらずマイコプラズマ感染症多くみられます。嘔吐を主訴に受診する症例もまだ目立ちます。  
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
  - ・ 4歳の伝染性単核症1例。溶連菌感染症も増えてきました。感染性胃腸炎あいかわらず大流行です。  
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
  - ・ 溶連菌感染症による急性化膿性扁桃炎の女児3名あり。3名とも39~40の高熱が4日間継続しました。  
(春日井市 かちがわ北病院)
  - ・ 嘔吐中心の感冒性胃腸炎多し。ウイルス性肺炎多し。  
(小牧市 小牧市民病院)
  - ・ インフルエンザB型がでてきました。  
(小牧市 鈴木小児科)
  - ・ 嘔吐を主訴とする胃腸炎の流行が続いています。  
(小牧市 志水こどもクリニック)
  - ・ 帯状疱疹 14歳  
(東海市 ハヤカワ小児科医院)
- 西三河地区
  - ・ 病原性大腸菌 0166 7歳男、018 30歳男  
RSウイルス感染症 4ヶ月男、1歳3ヶ月男  
インフルエンザA・Bクイック\* 3歳男 B(-)

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

インフルA・Bクイック\* : A型及びB型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

- ・ サルモネラ SP 09G 3歳男  
溶連菌また流行っています。3歳女 5歳男 10歳女  
(豊田市 やふそ小児科)
  - ・ 異型肺炎 9歳女、ロタウイルス 1歳男  
(岡崎市 深田小児科)
  - ・ 病原性大腸菌 055 VT(-) 6歳女  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
  - ・ 病原性大腸菌 025 VT(-) 9歳男、015 VT(-) 1歳男  
(岡崎市 にいのみ小児科)
  - ・ マイコプラズマ肺炎 8歳、アデノウイルス感染症(アデノチェック陽性) 3歳  
(幸田町 とみた小児科)
  - ・ インフルA Bクイック A(-) B(+) 1名  
(岡崎市 粟屋医院)
  - ・ 溶連菌感染症が引き続き目立ちます。  
(碧南市 永井小児クリニック)
  - ・ インフルエンザ B陽性 13歳女  
(知立市 宮谷クリニック)
  - ・ 嘔吐、下痢は相変わらず多い、白色便が多くなってきました。  
(西尾市 やすい小児科)
  - ・ ロタウイルス感染症 1歳男。依然感染性胃腸炎が流行しています。  
(西尾市 山岸クリニック)
  - 東三河地区
    - ・ A型インフルエンザが保育園で集団発生しています。またFluA\*  
(-)の高熱の患者さんも多くみられる。  
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)
- FluA\* : A型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。
- ・ インフルエンザが流行中 A型 25名(ワクチン未接種 18名、1回接種 1名、2回接種 6名) B型 36名(ワクチン未接種 11名、1回接種 11名、2回接種 14名) AB混合感染 20名(ワクチン未接種 4名、1回接種 7名、2回接種 9名) 20歳以上の成人 8名はすべて未接種です。

(豊橋市 野村小児科)

- ・ マイコプラズマ肺炎 8歳女  
(小坂井町 医療法人宝美会総合青山病院)
- ・ 胃腸炎多し。ロタウイルス(+ ) 2歳女(今シーズン第1号)  
(蒲郡市 蒲郡市民病院)
- ・ 咽頭結膜熱 8ヶ月男(アデノチェック陽性)  
(蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院)
- ・ 今週も、胃腸炎が目立ちます。インフルエンザ(A型)がでてきました。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者 1名

江南保健所から報告の70歳女。12/10発病、12/11初診、12/18診定。菌型は、ゾンネ 相。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

ツツガムシ病患者 1名。

第49週(12月3日~12月9日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっており、山形県で定点当たり報告数7.2と多くなっている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、宮崎県(26.8)、大分県(25.5)、熊本県(23.2)、福岡県(18.6)など九州地方で多くなっている。水痘の定点当たり報告数が多くなっているのは鳥取県(4.2)、福井県(4.1)などである。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較するとかなり定点当たり報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続しており、定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(7.7)、長野県(6.3)、沖縄県(6.3)などである。流行性角結膜炎は、宮崎県で定点当たり報告数3.5と報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2 0 0 1 年 1 1 月 3 0 日号 ( 7 6 卷 4 8 号 )

炭疽。米合衆国のその後 ; 1 1 月 2 1 日時点で 2 3 例。1 8 例確認 ( 5 例死亡 ) 。

コレラ。ナイジェリア : 1 1 月 1 4 日までに 7 2 4 例 ( 死亡 5 2 ) 。

ワクチンと生物製剤 : 1 9 9 9 年に W H O の所長によりワクチンと生物製剤に関する専門家委員会 (Strategic Advisory Group of Experts, SAGE) が組織され、本報は 0 1 年 6 月 1 4 日 ~ 1 5 日のジュネーブの第 3 回の会議のまとめ。世界規模のワクチン実施作戦に関する協力体制、ポリオ対策 : ワクチン接種終了の目標とする状況、世界的なワクチン接種率上昇、ワクチン開発、生物学的な研究促進、が今後急務を要する話題である。

1 1 月 2 3 日 - 2 9 日届出。コレラ : チャド、マダガスカル、中央アフリカ、ナイジェリア、ト - ゴ、ウガンダ、香港、インド。  
黄熱 : セネガル。

2 0 0 1 年 1 2 月 7 日号 ( 7 6 卷 4 9 号 )

ウイルス性出血熱 : ガボン。1 2 月 4 日、出血熱疑いの 7 例死亡が W H O に届出。同国保健省、W H O、フランス中央研究所で検査中。

世界の H I V / A I D S : 第一報 ( 地図つき )。W H O と国連 A I D S の 0 1 年報告。

0 1 年末で 4 千万人が感染者 / 患者、0 1 年に年間 5 百万名 ( 1 5 歳以下 8 0 万 ) が感染、世界的には男女差なく、感染している自覚がない者が多い。0 1 年の推定死亡数は 3 百万、女性死亡例の増加がアフリカ・サハラ砂漠南縁諸国で著明となっている。各国からの報告数の一覧表 : 患者数ではエチオピアの 5 万 4 2 3、タンザニア 1 3 万 3 8 6、ガボン 1 0 万 3 5 3、ケニア 8 万 1 4 9 2、コンゴ共和国 8 万 5 0 5 8 などが目立ち、他地区では米合衆国 8 0 万 6 1 5 7、ブラジル 2 1 万 7 9 9、スペイン 6 万 1 2 8、インド 8 万 4 3 8、タイ 1 8 万 1 4 8 4 が多いが感染者数ではインド、東南アジア、サハラ砂漠南縁諸国の急増が顕著であり、対策が急がれる。

ワクチンと生物製剤専門家会議続報 : 前報に続く勧告。ビタミン A の投与、国際的協力、特にワクチン開発と安全性の継続的監視等の重要性がまとめられている。

1 1 月 3 0 日 - 1 2 月 6 日届出。コレラ : 日本 ( 輸入例 )、シンガポール。

毎日の業務に追われ、忙しがっておりますうちに今年も暮れようとしています。小生自身にこの1年でどんな進歩があったか、考えてみますと内心忸怩たる思いです。先生方には随分お世話になりました。12月前半のまとめをお送りします。

1.名古屋地区：ウイルス性胃腸炎が各地区で流行、地域によっては大流行しています。腹痛と嘔吐が主体で時に発熱、下痢があり、乳幼児ではロタウイルス陽性の例も出ています（第一日赤有吉先生、千種区今枝先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。地域によってはインフルエンザBが発生していますが、インフル陰性で高熱数日間の感冒が多く、マイコプラズマを含む気管支炎・肺炎が広い世代で見られ（第一日赤有吉先生、国立病院吉田先生、城北病院渡辺先生、中京病院柴田先生、三菱病院岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生）、RSウイルス感染症の報告もいただいています（第一日赤有吉先生、国立・吉田先生、城北・渡辺先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）。溶連菌感染症、水痘、ムンプスが全市的に散発中で大同・水野先生からは最近耐性菌やグラム陰性の弱毒菌感染症が乳幼児に目立つとのことのお手紙です。

2.尾張地区：犬山市武内先生からは溶連菌感染症、感染性胃腸炎多発、水痘と手足口病が散発、江南市からは溶連菌感染症、嘔吐症、マイコプラズマを含む肺炎による入院が目立つ（昭和病院西村先生、愛北病院露木先生）、瀬戸陶生病院山口先生からは小型球形ウイルスによる胃腸炎の小流行あり、インフル・ロタウイルスともに発生していないとのことのお手紙をいただきました。

3.三河地区：トヨタ病院木戸先生からは1～2週間ほど下痢・嘔吐のある胃腸炎が成人を含めて発生、マイコプラズマ肺炎や喘息ないし喘息様気管支炎が目立った、岡崎市民病院系洲先生からはRSウイルス感染症（まだ軽い）、百日咳が目立った、知立市近藤先生からは感冒性嘔吐が流行中でロタウイルス、カンピロバクター、病原性大腸菌（O18）による下痢が目立ち、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎・気管支炎も多発、刈谷市田和先生からは嘔吐・下痢症（白色便もある）が少し目立ちムンプスと水痘が散発、豊橋市宮沢先生からは感冒性胃腸炎、ロタウイルス腸炎、ムンプスが目立つとのことのお手紙をいただきました。有難うございました。

4.医療現場がますます厳しくなる昨今ですが先生方にはお元気で新しい年をお迎えくださいますよう。平成14年もよろしく願います。